

1 幼稚園・認定こども園教育目標等

げんきに なかよく ちからいっぱい
 ～人や自然とつながり、心豊かでたくましい大山っ子の育成～

2 今年度の重点目標

- (1) 発達や学びの連続性を踏まえた教育を充実する。
- (2) 基本的な生活習慣を身につけ、健全な心身の基礎を培う。
- (3) さまざまな体験から豊かな感性と創造性を高める。
- (4) 友だちとのかかわりを大切にし、助け合い、協力ができる子どもを育成する。
- (5) 身近な自然を通して人と関わる力を育む教育の充実を図る。
- (6) 地域とともにある幼稚園づくりを推進する。
- (7) 安全・安心な園づくりに職員一丸となって取り組む。
- (8) 教職員としての資質と実践的指導力の向上を図る。
- (9) 一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を図る。

3 学校自己評価項目の達成及び取組状況

(達成状況： Aよく達成できた B達成できた C課題がある D改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程・指導	遊びや保育活動を通して、園児一人一人のよさや可能性を發揮させながら、他人とかかわり、生きる力の向上や生活習慣の確立をめざすことができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個性を尊重し、教育目標の達成に向けたきめ細やかな指導に努めている。 ・小規模園の特性を生かし、4・5歳児の「なかよしペア」による異年齢交流など、対人関係能力を育む教育活動を推進している。 ・発達段階や個々の課題に応じた支援を工夫し、幼児一人一人の良さや可能性を最大限に伸ばす取組を強化している。
	一人一人の子どもが自立に向かうための指導や支援ができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「食育」「眠育」「遊び」を三本柱として、基本的な生活習慣の定着に向けた保育内容の工夫や、家庭との密接な連携による取組の充実を図った。 ・園内支援委員会を定例開催し、課題や支援の方向性を職員で共有することで、園全体での共通理解に基づいた一貫性のある指導体制に努めた。
	幼・小学校の連携を大切にし、発達の連続性を考慮した保育の推進に取組めたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や運動会などの合同行事に加え、多様な交流活動を継続的に実施した。今後もより効果的な連携方策の更なる具体化を図る必要がある。 ・小学校全教職員による年長児の保育参観を実施し、幼児期の学びと小学校教育の接続を意識した相互理解を深めることで、発達の連続性を考慮した指導体制の充実を図った。
家庭・地域との連携	家庭や地域の協力のもと、身近な自然を通して人とかかわったり、五感を育んだりできる保育に取組めたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材を活かした保育の充実を図るとともに、地域住民との交流や近隣幼稚園との連携を深めることができた。 ・自然の中での対人関係を重視した保育に努めているが、さらなる展開に向け、新たな地域資源（自然環境や人材）の開拓に継続して取り組む必要がある。

安全管理	安全で安心した園づくりに取り組むとともに、安全に過ごそうとする態度や思いやりの心を育むことができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を育む体験活動を積極的に推進するとともに、安全で安心な保育環境の維持・向上に努めた。 ・室内での過ごし方や遊具の使用ルールについて、日常のあらゆる機会を捉えて園児自身が振り返れるよう促し、安全意識の向上を図った。 ・安全点検においては小学校職員と連携し、多角的な視点から検証を行うことで、危険箇所の早期発見と改善に留意した。
------	---	---	---

4 幼稚園・認定こども園における学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

<ul style="list-style-type: none"> ・小規模園のメリットを深化させつつ、現状の課題に対しても具体的な改善策を継続的に実施していくことが肝要である。 ・地域の支援による大山地区の自然体験（よもぎ摘み等）は、豊かな感性と生活経験を育む貴重な機会となっている。 ・園児が登園を心待ちにする現在の良好な園生活を、引き続き園全体で大切に維持していくことを期待する
--

(2) 総合的な評価（意見・感想）

<ul style="list-style-type: none"> ・地域に出掛ける園外活動の積極的な展開は、園児の世界を広げる貴重な機会となっているので、今後もその取組をすすめていくことを期待する。 ・4歳児にとっては「初めての社会生活」となる場であり、その重みを共有し、個に応じたきめ細やかな初期対応を園の重点方針として大切にしていきたい。 ・保護者アンケートの結果を踏まえ、基本的な生活習慣（あいさつ・一人で起きることなど）の定着を課題とし、園と保護者が共に学び・話し合える取組につなげていく必要がある。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

評価項目	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
遊びや保育活動を通して、園児一人一人のよさや可能性を發揮させながら、他人とかかわり、生きる力の向上や生活習慣の確立をめざすことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・4・5歳児の「なかよしペア」活動をはじめ、地域の方や他園の子どもとの交流などいろいろな人とかかわりを通して、思いやりの心や社会性が順調に育っている。一人ひとりの個性を認め、良いところを褒めて伸ばす保育を今後も大切にしていきたい。
一人ひとりの子どもが自立に向かうための指導や支援ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・園内支援委員会での協議内容を軸に、日々の課題を教職員間で共有し、対応策の実施から丁寧な事後検証に至るまでのサイクルを確実に進めることが大切である。
幼・小学校の連携を大切にし、発達の連続性を考慮した保育の推進に取り組めたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校とは行事だけでなく、日常的に目的を共有してスムーズな接続を図ることが大切で、少人数のメリットを活かした、新しい取り組みにも期待してる。
家庭や地域の協力のもと、身近な自然を通して人とかわったり、五感を育んだりできる保育に取り組めたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数編成だからこそ可能な、きめ細やかな保育と機動力を活かし、既存の枠にとられない新しい取組にも果敢に挑戦していただきたい。 ・大山地区の豊かな自然を活かした活動は、五感を育む貴重な経験となり、地域の方々との交流は、子どもたちの思いやりや優しさを育む。 ・教職員が保護者の悩みや不安に寄り添い、園児の成長を共に見守っていく姿勢を今後も重視されたい。
安全で安心した園づくりに取り組むとともに、安全に過ごそうとする態度や思いやりの心を育むことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAと協力した安全点検など、安心できる環境作りのための取組が行われている。今後も職員間で情報をしっかり共有し、子どもたちが安全で安心して園生活を送れるよう、努めていきたい。 ・安全に楽しく園生活を送れるよう、園児がルールや約束を守ろうとする気持ちを育てることも大切である。

